

ぎんれい句会

平成二十八年六月

潮の目のうすく光れるほととぎす

主宰 細野恵久

福祉三期

昆布干すや根室岬の砂利畳

増田和子

食文一期

マンネリのくらし断ち切る更衣

改正節夫

国際三期

どの顔も別嬪に見ゆ更衣

藤井秀重

生環四期

語り部の戦闘帽や知覧夏

三枝邦光

美工五期

鎌倉を登りつめたりあじさい寺

國永靖子

音文六期

空襲の義兄の忌日や立葵

猿橋二三雄

福祉八期

百日紅咲いたぞ日向子蘇れ

加藤善巳

美工八期

雲の峰サイレン走り時がゆく

太田 實

国際十期

蛇の衣宿世の縁かく脱ぐや

今崎良平

音文十四期

晩学はつまずき止まぬリラの花

大下絹子

国際十五期

青芒研ぎ澄まされし肥後守

中村建生

国際十五期

人だかり背伸びして見る夏野菜

藤本武子

国際十五期

接岸の巨船夏の峰隠す

山下 進

国際十五期

梅雨の朝丁寧に拭く老眼鏡

許斐國照

食文十五期

花嫁のブーケ舞い飛ぶ薄暑光

尾崎和代

健福十六期

紫陽花や何色にする今朝の服

小淵政子

健福十六期

窓の空ただ仰ぐだけ夏の雲

水島麗子 国際十六期

老鶯の声に間をおく牧師かな

兼清久子 健福十七期

憂き潮の切り替え早し夏暖簾

宮本公子 健福十七期

母の日の知らぬ子のいてカツコなく

沖本无辺子 国際十七期

水攻めの旗立つ城跡夏木立

香春早苗 国際十七期

銀山の黒き鑿跡滝しづき

仲田慎輔 国際十七期

大瀑布輪廻転生問答ス

中村富美子 国際十七期

シク口駆け一時涼し異郷の景

宮本眞貴子 国際十七期

門札は横文字綴り薔薇館

小栗恭子 健福十八期

百態の虫籠窓あり風薫る

潮江敏弘 健福十八期

ビルの街神輿掛け声夏来る

野見山剛 健福十八期

万緑をくぐりて長しすべり台

大山吉春 国際十八期

板屋根を叩く妻籠の驟雨かな

今井義和 美工二十期

ぎんれい句会について

ぎんれい句会は、シルバーカレッジ第一期生として在学中だった俳誌「ぐろっけ」主宰品川鈴子先生に俳句の手ほどきを受けた同期生が卒業後すぐ平成九年四月に上げた句会で、その後次々に同窓の俳句愛好者を加えて今日まで月一回の句会を続けてきました。

鈴子先生には引き続きご指導を賜りましたが、平成十五年からは第三期生で「ぐろっけ」同人会長の細野恵久先輩が代って指導を引き受けておられます。

その間、平成十八年に第百回記念の、また平成二十六年には第百回記念の合同句集を発行、句会の足どりをささやかながら形として残しました。

なお今回ご紹介する作品は第二百二十六回の句会からの一人一句です。